



J R 連 合 NEWS

JRに集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を！！

2020 年度

No. 75

2021年2月9日

日本鉄道労働組合連合会

貨物鉄産労 第34回中央委員会

21春闘を先頭に立ち牽引する！

貨物鉄産労は2月7日、静岡市において、第34回中央委員会を開催した。感染症予防に配慮し、各地をテレビ会議システムで繋いでの形式となった。

冒頭、大杉正美中央執行委員長（JR連合副会長）は、春季生活闘争方針と、JR貨物が1月8日に公表した「JR貨物グループ長期ビジョン2030」に集中し挨拶を行った。まず、春闘方針では「ベア1,000円を要求



する根拠は、JR連合の中期労働政策ビジョンに掲げる必達目標に到達していないからである。『働きの価値に見合った水準』へと賃金を押し上げ、格差是正に取り組む」と決意を述べた。また、「長期ビジョン2030」について「会社は2030年の完全民営化をめざすとしているが、乗り越えるべき政策的な課題は山積しており、政治的な取り組みが不可欠である。『政労使』の枠組みをより強固なものとしていく必要がある。また、会社は完全民営化を果たすメリットをもっと組合員に説明するべきだ」との見解を示した。

来賓として出席したJR連合今井孝治企画部長は、昨秋に実施した署名活動への御礼を述べるとともに、決起集会をはじめとする政策課題解決に向けた活動の成果と課題を報告し、「この間の取り組みによって構築された『政労使』の枠組みは、JR二島・貨物経営自立実現PTといった政策の取り組みだけに留まらず、民主化闘争の完遂にむけた組織の強化・拡大にも活用させていかなければならない」と意気込みを語った。

質疑では、7人の委員から春闘方針の補強や、組織拡大に向けた決意などの発言があった。辻村和裕書記長の総括答弁を経て、すべての議案が満場一致で承認された。その後、委員会宣言を採択し、大杉委員長の団結がんばろうで締めくくった。